

「女子中高生夏の学校2018～科学・技術・人との出会い～」出展報告

教育と普及委員会
人材育成・男女共同参画委員会

女子中高生が「科学技術にふれ」、科学技術の世界で生き生きと活躍する女性たちと「つながり」、科学技術に関心のある仲間や先輩とともに「将来を考える」機会として、2018年8月9日～11日に、埼玉県比企郡嵐山町の国立女性教育会館で「女子中高生夏の学校」(以後「夏学」)が開催されました (https://www.nwec.jp/event/training/g_natsugaku2018.html 2018.09.11閲覧)。「夏学」は独立行政法人国立女性教育会館の主催で2005年より毎年開催されており、今年で14回目を迎えています。全国から集まった約80名的女子中高生が2泊3日の合宿研修を行い、その中で科学研究者、技術者、大学生・大学院生等との交流を通じて、理系進路の魅力を知り、理系に進もうという意思を高めることを目指しています。日本気象学会は昨年引き続きこれに出展しましたので報告します(第1図)。

日本気象学会は、教育と普及委員会と人材育成・男女共同参画委員会と共同で2日目に行われたポスター展示に出展しました。ポスター展示は、参加者が13時から15時15分の間に各出展団体のブースを回り、興味のある分野の話の聞いたり、キャリア相談したりするというスタイルです。今年は40の団体が出展しました。気象学会からは5名が参加し、ポスターの説明やキャリア相談を行いました。



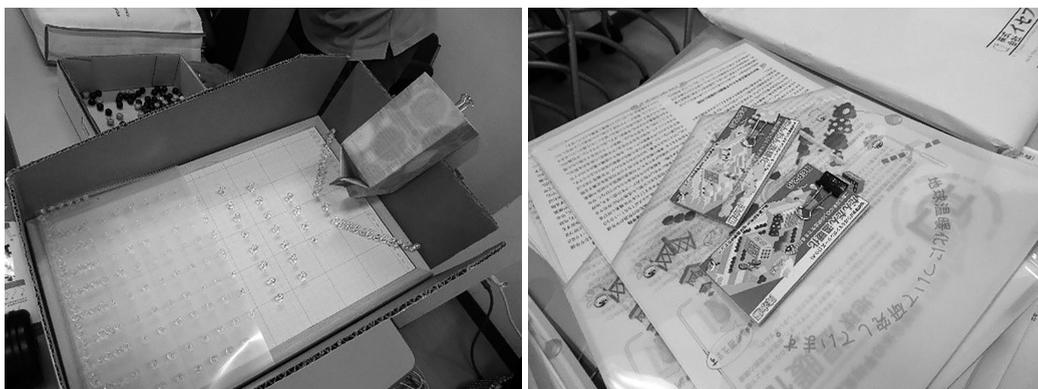
第1図 会場エントランス。

ポスター展示の内容は、地球温暖化についてです。今年の夏は各地で猛暑日が続くなど、温暖化への関心が高まっています。ただ、温暖化という言葉は知っていても、実際にどういった研究がおこなわれているのか、猛暑日があるから温暖化といえるのか、などはあまり知られていません。そこで、温暖化と気候モデルについて説明したポスターをつくり、展示しました(第2図)。現物は気象学会のウェブページに掲載しています。(<https://www.metsoc.jp/2018/09/14/13026>)。また、国立環境研究所地球環境研究センターからご提供いただいた、温暖化に関する広報用資料や実験器具を用いて、温暖化の知識など、ポスターだけではカバーしきれない点を説明することができました(第3図)。

気象学会のブースはポスター会場の一番奥に配置されていたのですが、「気象に興味がある」とピンポイントで来てくれた生徒や、日本地球惑科学連合(JpGU)と向かいだったこともあり、「地球や環境に



第2図 ポスター、配布資料など。



第3図 国立環境研究所からお借りした、イベントアトリビューションを説明する実験器具（左）と、配布用に提供いただいた地球温暖化の広報用資料（右）。

興味がある」といった生徒もたくさん来てくれました。温暖化の説明だけでなく、将来こういうことをしたいなど、進路に関する話もすることができました。

ポスター展示の後には、5名程度の生徒のグループが様々なテーマに分かれてスタッフとおしゃべりする企画（GateWay）がありました。生徒達は約1時間半の間に、「理系苦手だったってホンマでっか!」「物理屋さん」「受験勉強応援隊」など、思い思いのテーマを3～4つ巡って、ざっくばらんな話を熱心に聞いたり質問したりしていました。

気象学に興味のある、なし、漠然と地球に関することや理系に興味があるなど、いろんな参加者がいましたが、どの参加者も若く、エネルギーに満ち溢れていました。そういった年代の参加者と触れ合える機会に恵まれたことに感謝します。また、国立環境研究所地球環境研究センターをはじめ多くの方の協力のもと、無事に出展できたことに感謝します。今回のポスター出展が、少しでも、彼女たちの進路を考える助けになればいいな、と思います。